

# 新型タバコの危険性

第2回

## 有害性示す研究や事例が多数報告

### 「加熱式タバコ」の成分と影響

加熱式タバコは比較的低温で加熱するので、メーカーは「タールなどの有害成分を90%カットした」と発表していますが、ニコチンは紙巻タバコと同様に含まれています。

ニコチンは脳に作用し、βエンドルフィンを分泌させることで幸福感をもたらしますが、その分、血中濃度が低下するとイライラ感が

各種の加熱式タバコ



左からアイコス、グロー、ブルーム・テック  
写真提供：国立保健医療科学院部長 樺田尚樹氏

高まるため、強い依存性を形成します。また全身の血管を収縮させることで高血圧や動脈硬化が生じ、心筋梗塞や脳梗塞などの要因となります。さらに、各種の香料なども加えられており、英国で行われたラットでの動物実験では、これらの成分が肝臓機能に障害を及ぼすことが証明されています。

加熱式タバコに関して、安全性の証明ができていないとしてFDA(米国食品医薬品局)は米国内での販売を禁止していますが、日本では「たばこ事業法」の管轄になるため薬事法で規制することができず、すでに全国で販売されています。

加熱式タバコの常用者の体に今後どのような影響が現れるのか、注意深く観察を続ける必要がありますが、健康被害が証明されてから規制しても遅いので、危険性のある物質が含まれる商品に関しては安全性が証明されるまでは認可しないというのが正しい方向ではないでしょうか。

### 「電子タバコ」の成分は本当に安全か

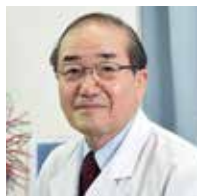
電子タバコでは特殊なりキッドを加熱して

その蒸気を吸入します。りキッドの成分はプロピレングリコール(PG)、植物性グリセリン(VG)及び各種の香料で、単独ではいづれも人体には無害とされています。国内で販売されている製品にはニコチンは含まれていないことになっていますが、45種類中15種類から少量のニコチンが検出されたという報告もあります。一方、海外で発売されている製品の中にはニコチンが含まれているものもあります。中には大麻が含まれているものもあるようです。

PG自体は無害ですが、加熱すると発がん性のあるプロピレンオキサイドに変化します。実際に肺がんが増えるかどうかについては長期の経過を見ないとわかりませんが、有害物質が発生することは確かです。

また、原因物質は特定できていないようですが、電子タバコ使用後に急性の間質性肺炎を発症した事例の報告もあります。

さらに英国で行われた健康な人を対象にした実験によると、吸入により肺内のマクロファージが減少し、その結果、将来的にはCOPD(慢性閉塞性肺疾患)などが起きる危険性が高いとのことです。



[執筆者]  
金子昌弘 (かねこまさひろ)

公益財団法人東京都予防医学協会 健康支援センター長  
1970年慶應義塾大学医学部卒業、日本鋼管病院内科、国立がんセンター病院レジデント、北里大学医学部放射線科講師、国立がんセンター中央病院内視鏡部長を経て2011年に定年退職。同年、本会呼吸器科部長に就任。2015年より本会保健会館クリニック所長、2017年から現職。日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会指導医、肺がんCT検診認定機構認定医などの資格を持つ。特定非営利活動法人タバコフリー学会の副代表理事を務める。